



個人投資家向け会社説明資料



証券コード：5970

株式会社ジーテクト

ジーテクトとは？

1. グローバルな自動車部品メーカー

2. 安定した事業基盤

3. 将来性

4. 積極的な株主還元



1. ジーテクトについて



自動車の
骨格部品
サプライヤー

拠点
12カ国28工場

本社所在地
埼玉県
さいたま市

海外売上高比率
82%

R&I格付
A-（安定的）

＜売上高＞
3,334億円
＜営業利益＞
156億円

2026年3月期実績

代表取締役社長 高尾 直宏



経営理念

人間性尊重

堅実経営

技術革新

経営ビジョン

“Shape the Future”

情熱と革新を融合させ
人とクルマと地球のより良い未来をかたちづくる

1952年

創業

Takao

高尾金属工業
1952年 創業
(和歌山県田辺市)

 **KIKUCHI**

菊池プレス工業
1953年 創業
(東京都三鷹市)


1964年

**ホンダ
取引開始**

1984年

海外進出

1984年 北米地域へ海外初進出

1994年 アジア進出

1997年 欧州進出

1996年 南米進出

2001年 中国進出



2011年

合併
2011年4月 ジーテクト発足


2014年

**東証一部
上場**


2018年

**開発力
強化**

2018年3月
研究開発棟(東京ラボ)設立

2025年

体質変革


日本 中部工場

中国 南沙工場

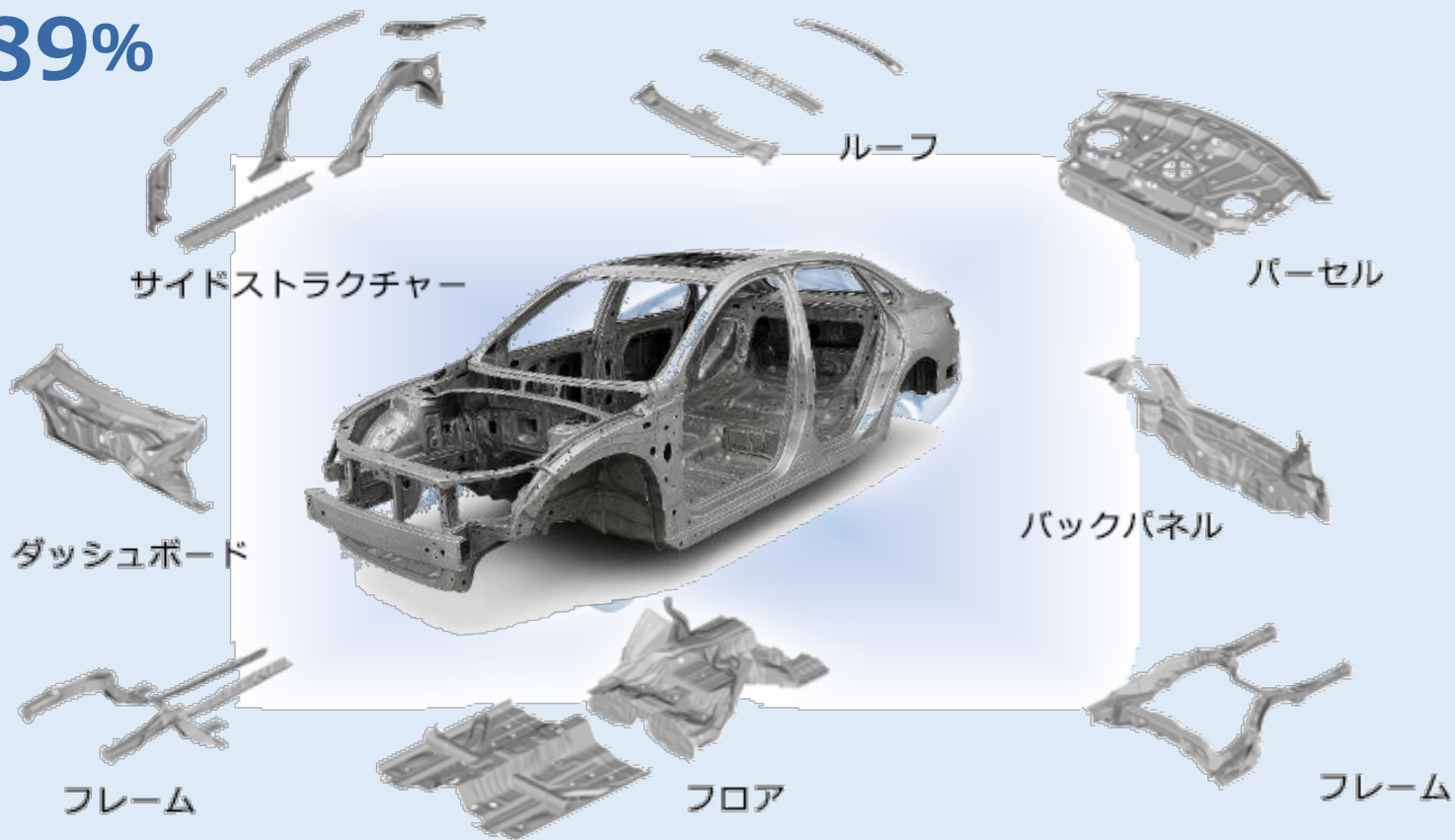
2025年3月
次世代工場の稼働

軽くて高強度なボディ(車体)を通じて、乗員の安全と地球環境を守る

車体部品

売上高構成比

89%



トランスミッション部品

売上高構成比

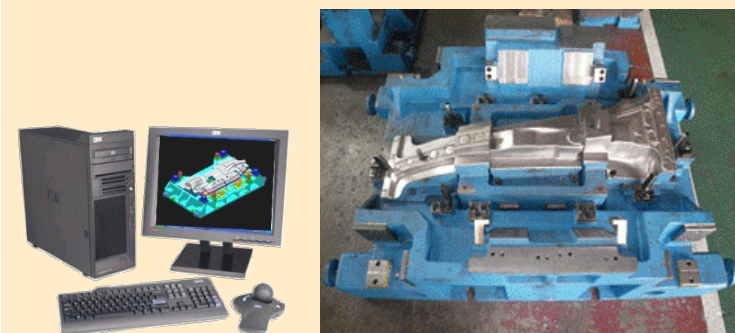
2%



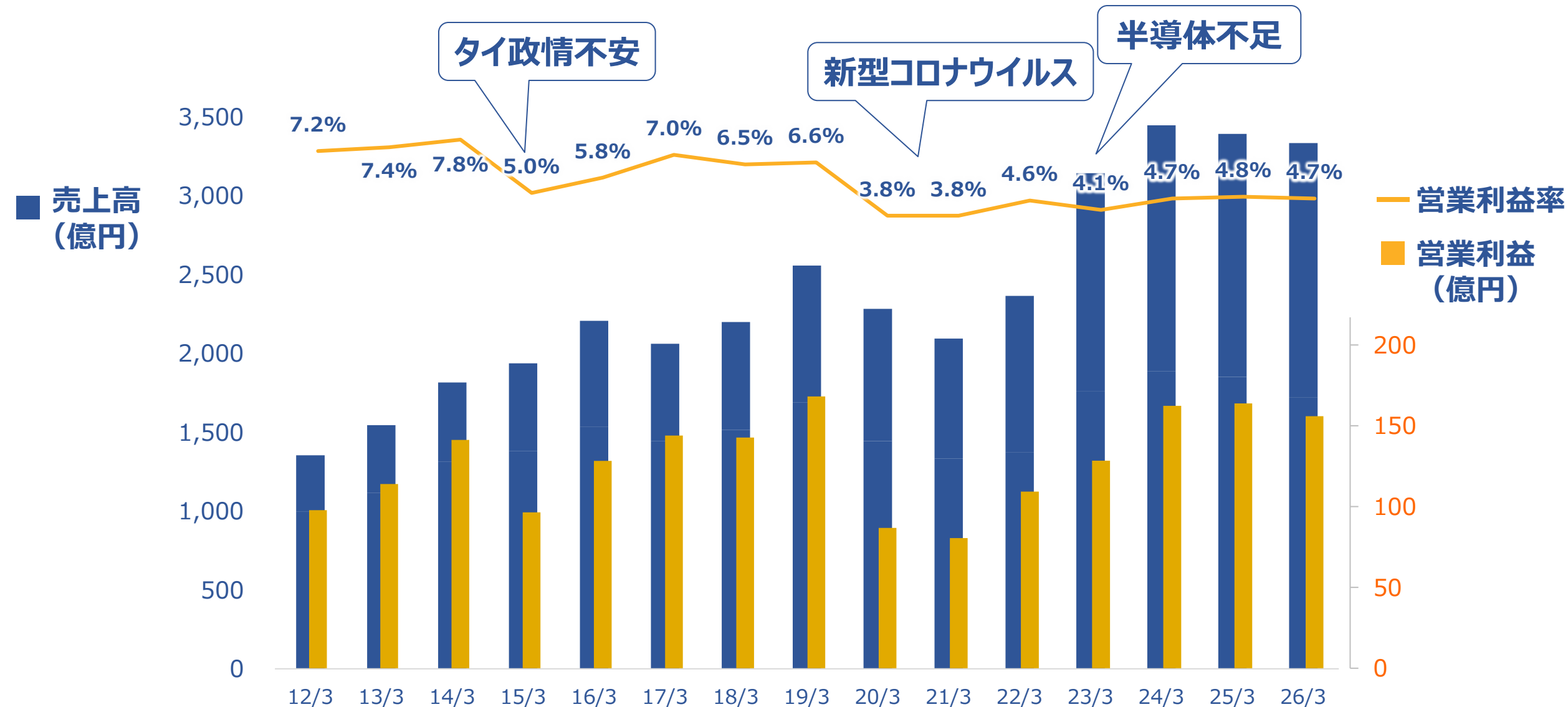
車種開発

売上高構成比

9%



環境変化に俊敏かつ柔軟に対応し、持続的な成長と進化を遂げる



世界12ヶ国 28工場でビジネスを展開



ホンダ全車種に搭載 世界の主要メーカーにも採用

HONDA

製品搭載率100%



N-BOX



VEZEL



FREED



CIVIC



FIT



STEP WGN

アコード、オデッセイ、CR-V、ZR-V、WR-V
N-ONE、N-WGN、N-VAN、Super ONE
プレリュード、アキュラブランド、パイロット

SUBARU



TRAILSEEKER



FORESTER



LEVORG



BRZ



CROSSTREK



欧米メーカー

BMW



Xシリーズ

JLR



Range Rover

VW



ID.BUZZ

Ford



RANGER

TOYOTA



CROWN



LEXUS ES



RAV4



bZ4X



LAND CRUISER



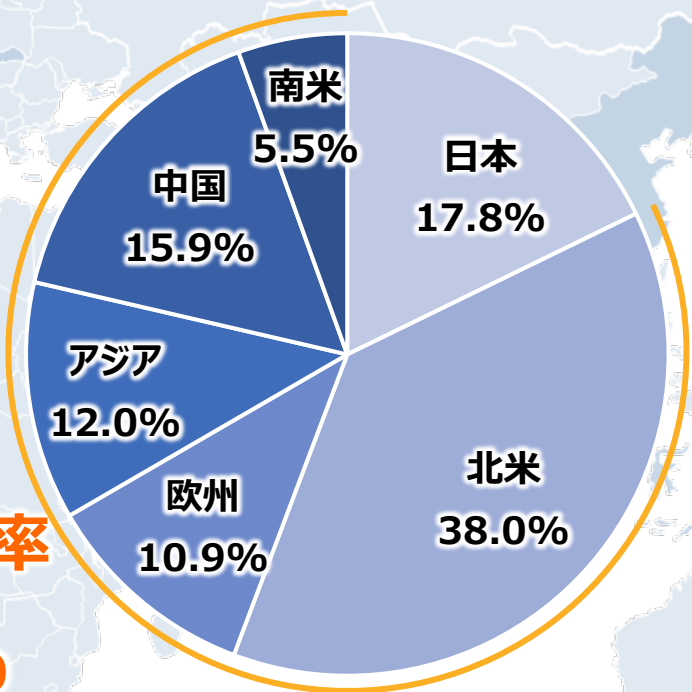
JAPAN Taxi

クラウンシリーズ、LEXUS(LM/GX/NX/RX/RZ)
カローラ、カローラクロス、ヤリス、ヤリスクロス、C-HR
ハイラックス、ハイランダー、ハイエース、bZ3X

バランスのとれた地域・取引先ポートフォリオを構築し、リスク耐性を高める

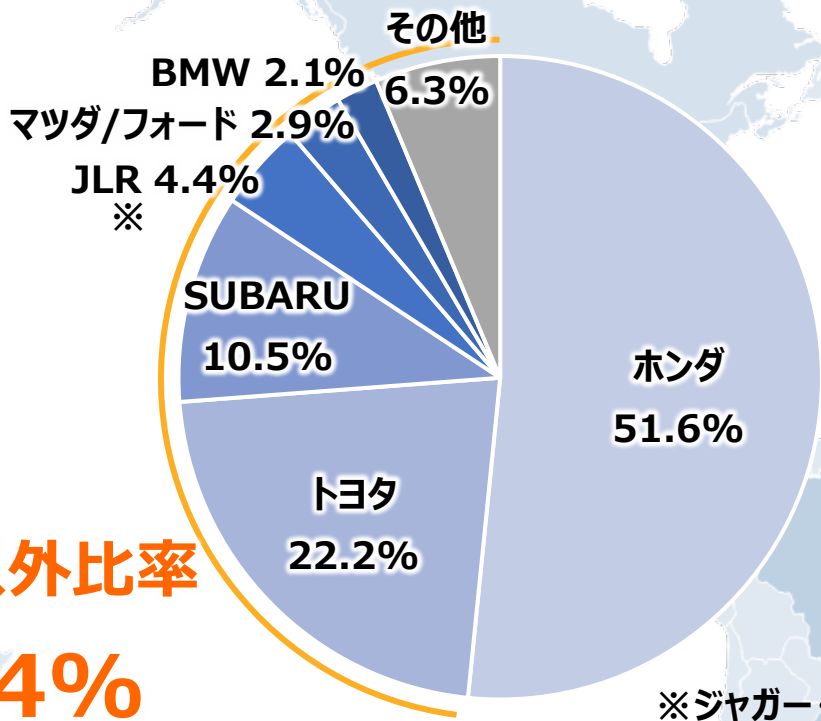
2026年3月期

地域別売上構成



海外売上比率
82.2%

取引先別売上構成



ホンダ以外比率
48.4%

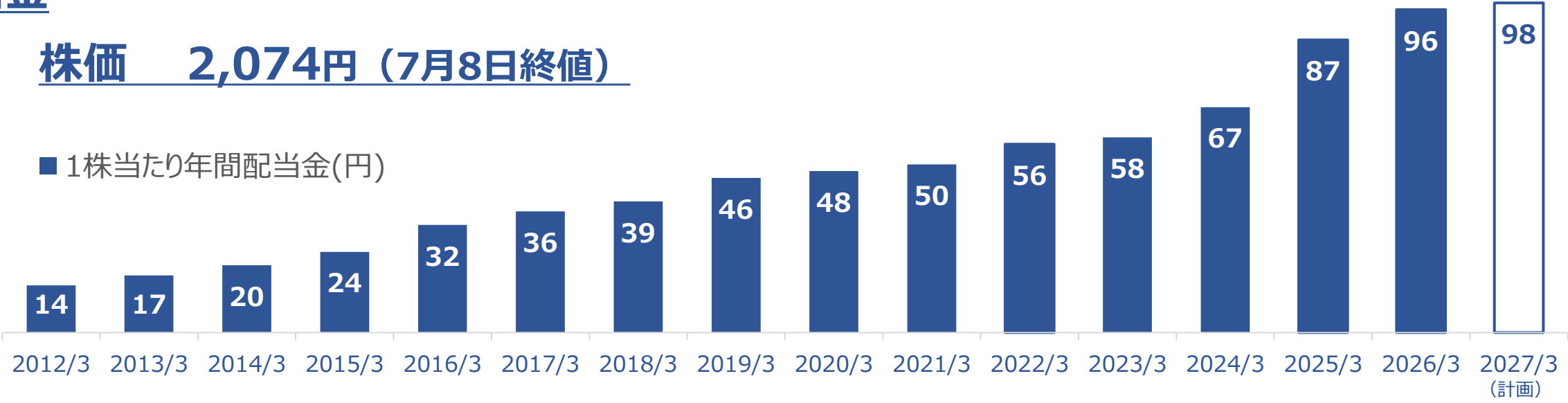
※ジャガー・ランドローバーの略称

当社製品は地産地消を基本とした事業モデル
関税の直接的な影響はわずか

配当金

15期連続増配中

株価 **2,074円** (7月8日終値)



株主優待



保有株式数 継続保有期間	300株以上500株未満	500株以上
	300株以上500株未満	500株以上
1年以上2年未満	1,000円相当のクオカード	3,000円相当のクオカード
2年以上3年未満	2,000円相当のクオカード	4,000円相当のクオカード
3年以上	3,000円相当のクオカード	5,000円相当のクオカード

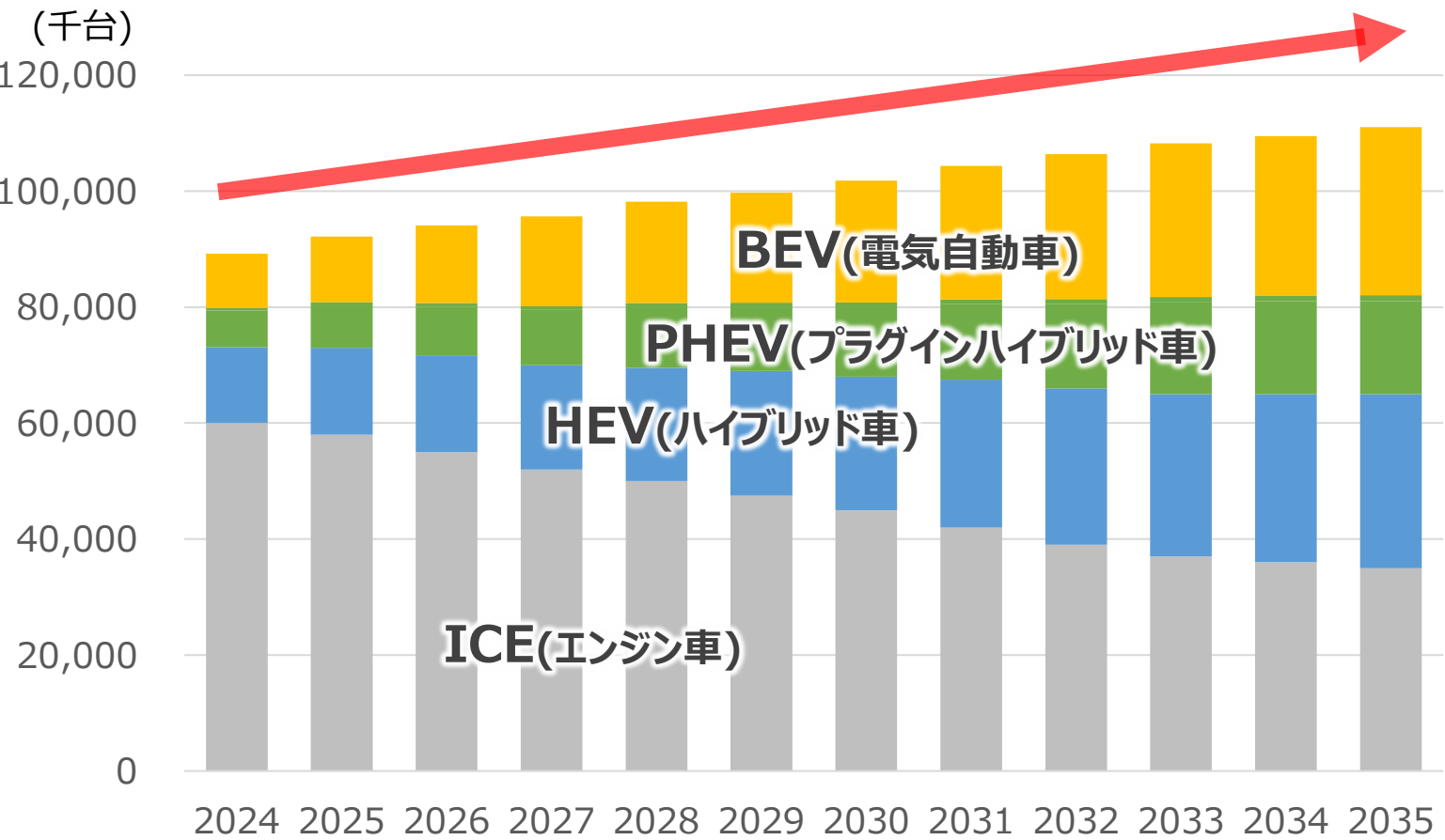
配当金 + 優待の総合利回り **4.8%** (条件 : 株価2,100円 配当金98円 300株を1年以上保有)

2. 環境認識

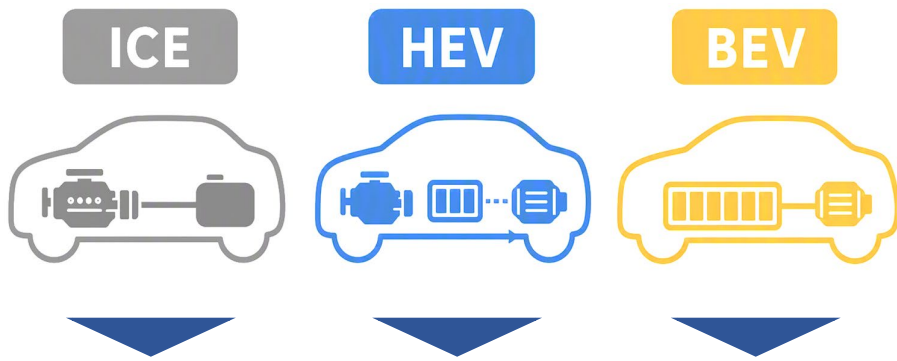


自動車市場の拡大は継続する見通し 当社の成長余地も広がる

グローバル販売台数予測



※S&P Global Mobilityデータを参考に弊社予測



自動車メーカーは生き残りを懸けた厳しい時代、サプライヤーの役割が変化

自動車産業・自動車メーカーが抱える課題

- ・車両開発のスピードアップが求められる(短期間開発)
- ・ソフトウェア開発にリソースを割かなければならない(多額の開発費用)
- ・コスト競争力強化のため、調達構造の見直しが必要(サプライチェーンの再構築)

自動車メーカーの車両開発を支える
パートナーが求められる

対策

- ・開発の外部活用(アウトソーシング)
- ・開発の効率アップ
- ・部品数削減、生産効率アップ

高い開発力を持つジーテクトは
開発から量産までワンストップで担うことが可能

3. 中期經營戰略



2028年度までの中計期間は 2030年度目標達成の鍵となる体質転換期

	2025年度実績	2028年度目標	2030年度目標
売上高	3,334億円	3,800億円	4,000億円
営業利益	156億円	250億円	280億円
営業利益率	4.7%	6.5%以上	7.0%以上
ROE	6.4%	8.0%以上	10.0%以上
DOE	2.45%		3.0%以上
配当性向	30.5%	30%以上	30%以上

売上拡大と収益基盤の改善を軸に、経営目標達成を目指す

収益基盤の改善

- ・生産体質変革(省人化/無人化)
- ・DXとデジタル技術活用(スマートファクトリー化)
- ・不採算部門の整理

財務体質改善/企業価値向上

- ・積極的な成長投資
- ・IR(投資家向け広報)活動強化

ESG

- ・CO₂排出量の削減(エネルギー使用量削減)
- ・ガバナンス強化

売上拡大

- ・開発力強化(モジュール化提案&プラットフォーム提案)
- ・適正価格への移行
- ・非量産ビジネスの拡大(金型設備/試作品)
- ・新規事業の創出

人的資本

- ・従業員エンゲージメントの向上
- ・教育研修/リスキリング支援

モビリティの多様化に応えるプラットフォームを開発中

FY2024

FY2026

FY2030

モジュール開発



ジーテクトプラットフォーム開発

パワートレインに合わせ最適プラットフォームを提案

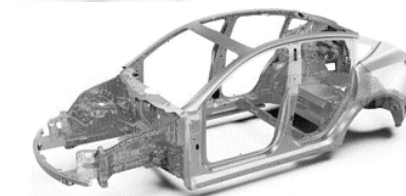


最適化

ICE/HEV

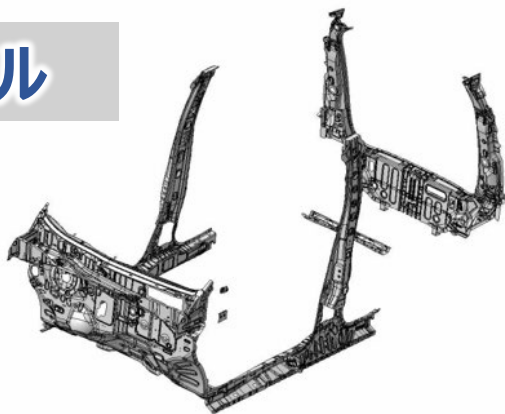


BEV



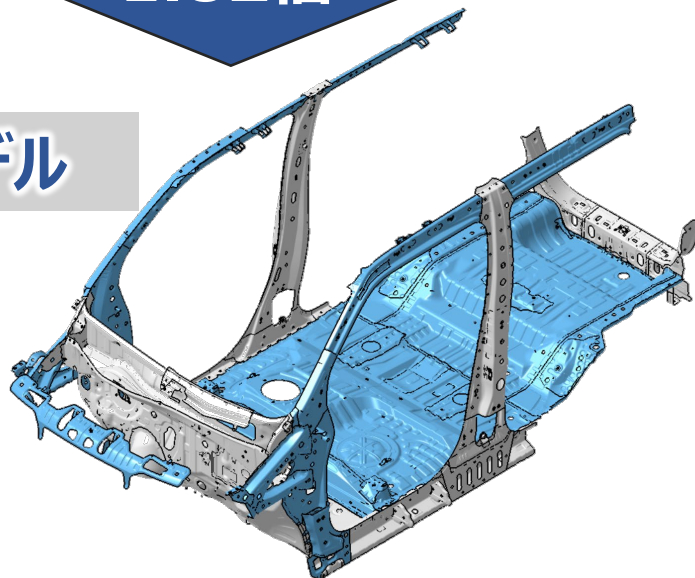
高付加価値部品の受注獲得により、1台あたり受注製品単価が向上

先代モデル



1.82倍

現行モデル



ホンダ ヴェゼル



1.37倍



トヨタ RAV4



1.79倍



スバル フォレスタ



1.66倍

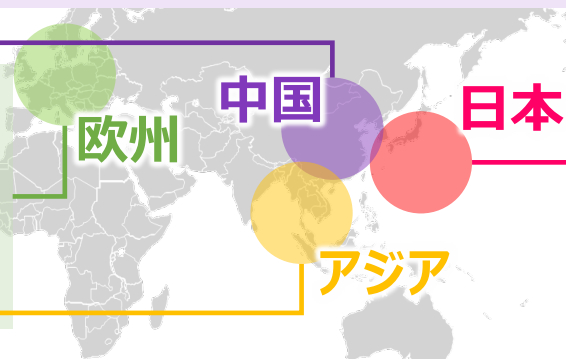


昨年度もグローバルで多くの自動車メーカーの新規モデルを生産スタート

東風	嵐図	TOYOTA		HONDA
猛士 M817	泰山	bZ3X	bZ7	HONDA P7
	東風日産			
嵐図 知音	N7	bZ4X	WILDLANDER	HONDA S7

HONDA	TOYOTA	SUBARU
PRELUDE	bZ4X	FORESTER
N-ONE e:	RAV4	OUTBACK
Super ONE	C-HR	TRAILSEEKER

VW	BMW	NISSAN
ID.BUZZ	Mini CONVERTIBLE	LEAF



SUBARU	TOYOTA	
FORESTER	Lexus NX	RAV4

SUZUKI	VINFAST	TOYOTA			
FRONX	VF8	FJ CRUISER	Veloz	CAMRY	Hilux Travo

HONDA	TOYOTA
WR-V	Yaris Cross

グローバルで多数の新規モデルが生産準備中

＜自動車メーカー＞

日系：	ホンダ、トヨタ、スズキ、日産
非日系：	欧州系・中国系メーカー

BEV：10Models
ICE/HEV：27Models

Total
37Models
('26～'28年度)

**売上
収益性**



体質変革を加速し、着実に収益性の高い工場へ進化



生産性向上

現場作業をロボットへ置換



省人化・無人化ライン



工場内物流



自動倉庫

- ✓ 要員効率/生産数の改善
- ✓ 作業ロス排除
- ✓ 生産変動/多品種にも追従できる設備

信頼性向上

品質検査のデジタル化



品質検査の自動化

- ✓ 検査数・検査ポイントの増加
- ✓ バラツキの無い品質検査
- ✓ 検査データを活用した予知予防

人材の力を最大化し、持続的な成長と企業価値向上を実現

人的資本強化

働き方改革

グローバルな組織強化

グローバルでの自立運営力と統制力を両立

- ✓ 海外拠点の幹部・経営人材の育成
- ✓ 現地幹部の登用と拠点の自立性向上
- ✓ グローバルなネットワークによる進捗共有・知見共有
- ✓ タレントマネジメントによる人材可視化と最適配置

各拠点の戦略実行力を高める

成長を支える人材育成

変革を担う人材の計画的な育成と能力向上

- ✓ モノづくりスキル・技術力の高度化
- ✓ DX・デジタル人材の育成
- ✓ リスキング機会の創出
- ✓ 経営幹部候補人材の育成
- ✓ グローバル人材の計画的な育成

人材を強化し生産体質変革や先進技術開発を加速

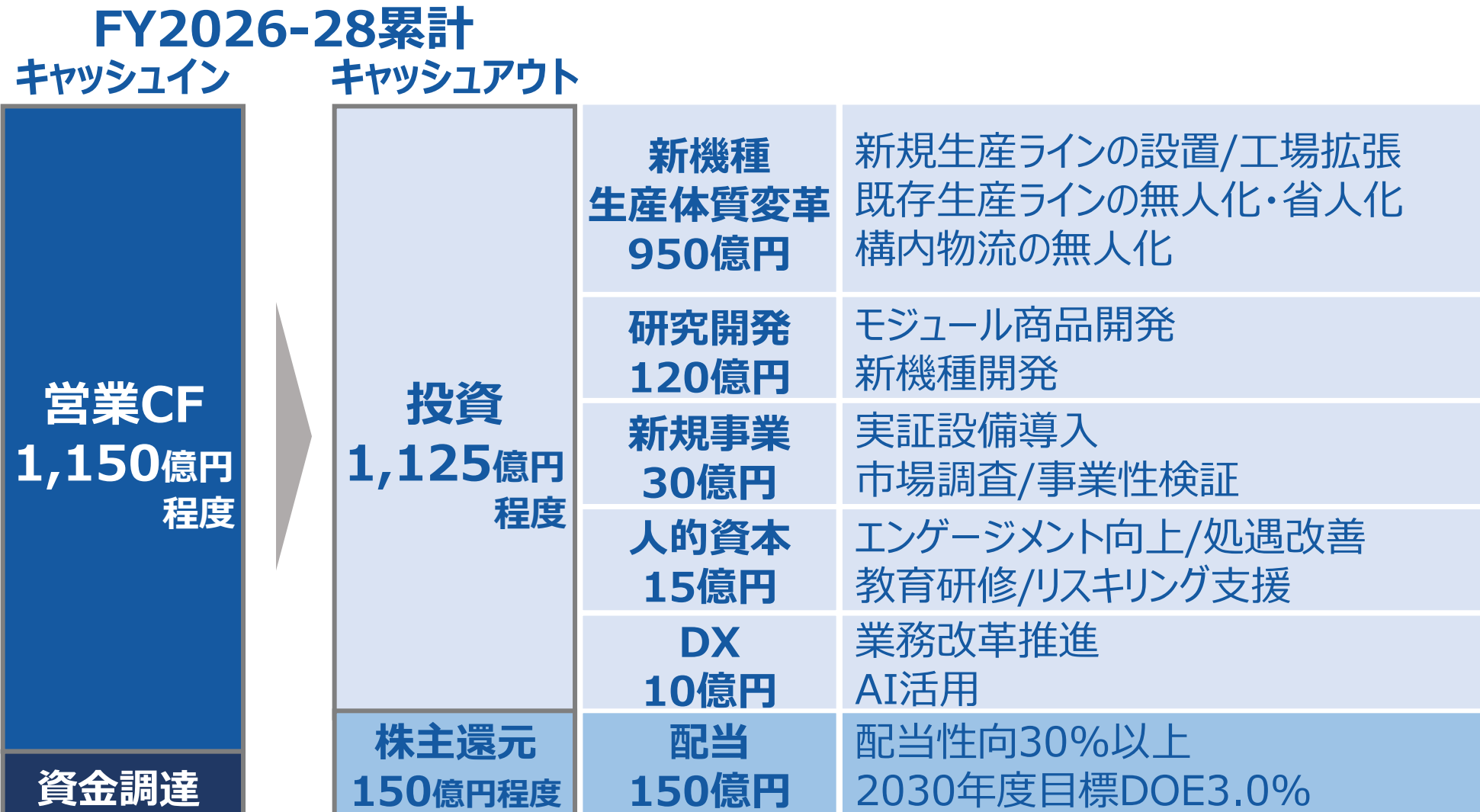
多様な人材が活躍できる組織作り

多様性の力でイノベーションとエンゲージメントを向上

- ✓ ダイバーシティ推進・女性活躍推進
- ✓ 男性の育児休業・休暇取得推進
- ✓ 柔軟な働き方・ワークライフバランス
- ✓ 各種制度整備（再雇用・社内公募等）

人材の確保・定着と組織の活力向上により成長基盤を強化

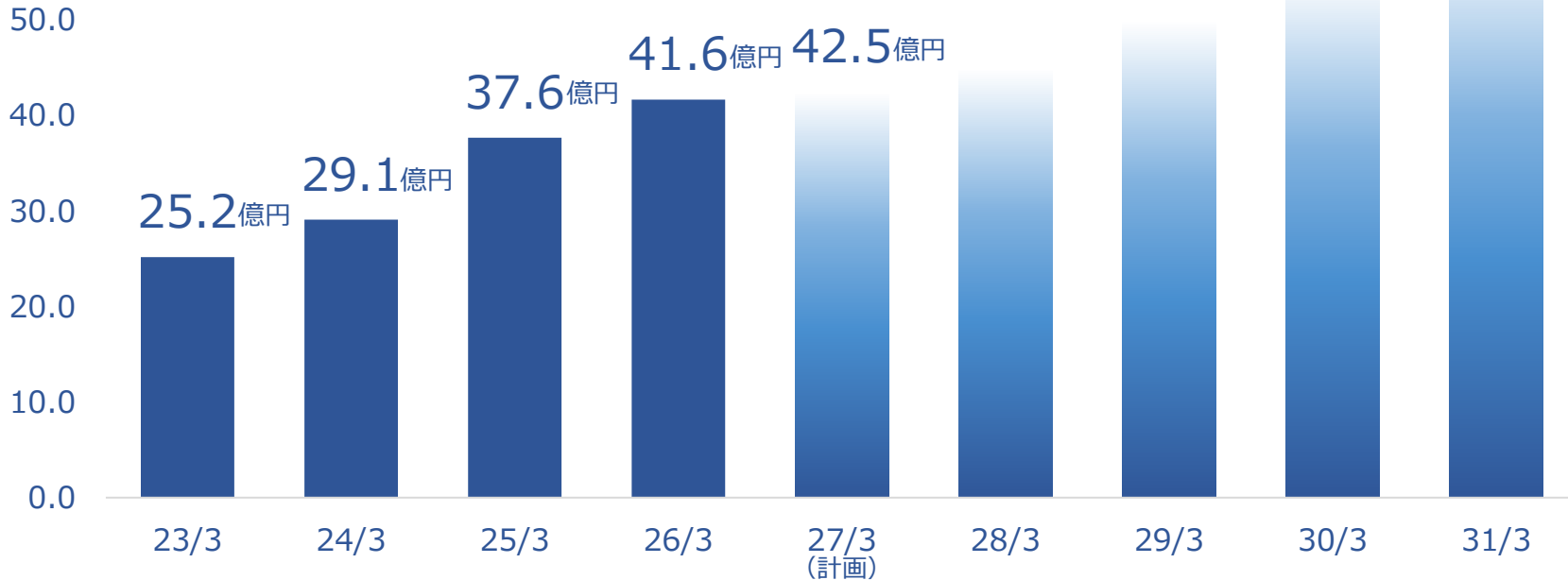
将来に向けた成長投資へ優先的に資本配分



現中計期間に配当総額150億円、2031年3月期にDOE3.0%達成を目指す

配当金総額の推移

(億円)



DOE(株主資本配当率)とは

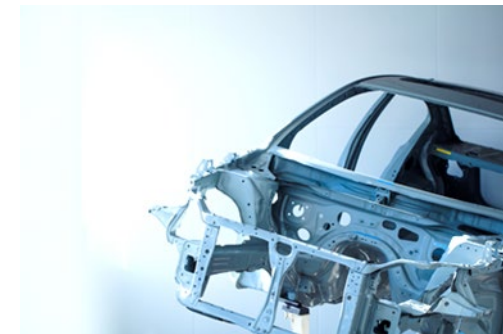
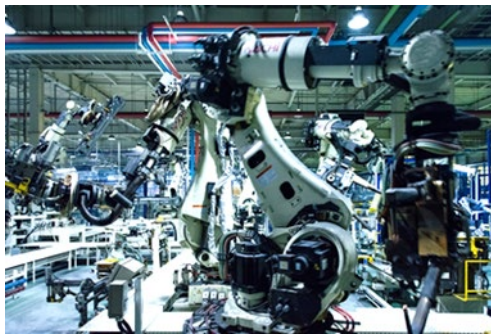
DOE (%)

||

$$\frac{\text{年間配当金総額}}{\text{株主資本}} \times 100$$

安定的・継続的な
配当を目的として採用

1株当たり純利益	238.87	307.52	289.39	314.31	303.65
1株当たり年間配当金	58	67	87	96	98
配当性向 (%)	24.3	21.8	30.1	30.5	32.3
DOE (%)	1.82	1.94	2.39	2.45	2.38



春と秋の年2回、株主様限定工場見学会を開催しています。
プレス機や金型、溶接ロボットなどの見学を通じて製造現場を体感いただく
とともに、経営陣・工場責任者と活発に質疑応答が交わされています。

Shape the Future

人とクルマと地球のより良い未来をかたちづくる

将来見通しに関する注意事項：

このスライドに記載されている株式会社ジーテクトの業績見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、市場動向、対ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。